

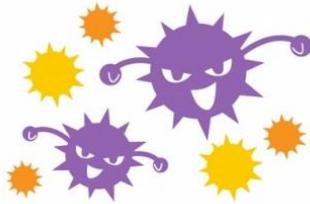
～ヒトメタニューモウイルス～今年も流行が始まりました！

ヒトメタニューモウイルスは、2001年に発見されたウイルスです。ウイルスの型が同定され検査できるようになったのは最近ですが、昔から人の間で流行してきた呼吸器系のカゼのウイルスの一種で、新しい驚異的なウイルスと言うわけではありません。

○1歳前後～5歳くらいまでの間の乳幼児の間で流行する傾向があり、2歳までに50%の子どもが、10歳までにはほぼ100%の子どもが感染すると言われています。また、一度の感染では免疫がつかないため何度でも感染します。

○このウイルスは一年中感染しますが、3月～6月に一番流行しやすく、症状はRSウイルスと非常によく似ています。

○感染すると高い熱が2-5日ほどと激しい咳き込みが続くことが多いです。



〔典型的な症状・経過〕

○感染→(4～6日間くらいの潜伏期間)→発熱・咳・鼻水(風邪のような症状)→細気管支炎や肺炎、喘息に似た激しい咳き込み発作+高熱→約1週間で改善

○最近、検査キットが開発され、確定診断のために外来でも検査ができるようになりましたが、保険適応は限られ(6歳未満のレントゲン検査で肺炎が疑わしい患者さんのみ)、それ以外の患者さんは流行状況と状態から推測します。高熱が続く咳込みが激しく、インフルエンザでもなくRSウイルスでもない場合には、このウイルスを疑います。

○ヒトメタニューモウイルスの治療には、残念ながらまだ特效薬がなく、咳や発熱の症状を和らげる対症療法(お薬を飲んだり吸入したり)がメインになります。また脱水にならないための水分補給も重要です。

☆ヒトメタニューモウイルスに感染すると、2週間くらいは、お子さんのつばや鼻汁にウイルスが排出され続けるため、その間は他の人にうつす可能性があります。

☆咳やくしゃみなどを介してうつる飛まつ感染と、ウイルスが付着したおもちゃをなめたり触ったりして感染する接触感染があるので、保育園などの集団生活ではケアする大人達の配慮が大切です。手洗いとうがいをしっかりとしましょう。



グレイス病院 小児科 松居 忍り子